

新温泉町中高連携方針報告書の概要

新温泉町中高連携方針検討委員会

今後求められる人材には、社会情勢の厳しい変化が続く中においても理想とする未来に向け、新たな価値を創造したり、多様な他者と協働し「絆」を深めながら困難を克服したりする力が求められています。そのためには、中高生の発達段階を踏まえ、中高生が主体的に関われるよう、魅力的で系統性のある一貫した教育、「在りたい未来」に向け深みのある教育を推進する必要があります。

そのことにより、中高生たちが今までにない大きな課題に遭遇しても、支え合い、高め合いながら躍動感にあふれた資質能力を最大限に発揮し、課題を乗り越えていく力を育成できると考え、令和5年度に「新温泉町中高連携方針検討委員会」を立ち上げ、協議を重ねてきました。

このたび、その報告書がまとまりましたので、概要をお伝えします。



◆中高連携の目的を考える上での4つの視点

機会	予測困難な中、多方面で大きな改革が行われており、中高連携において、改革を推進する機会となっている。 ・教育振興基本計画（国）の見直し（社会の創り手の育成、ウェルビーイング） ・大学入試改革（令和7年度実施分から新学習指導要領の対応、「探究」の重視） ・中央教育審議会答申や諮問等で、高等教育と初等・中等教育の連携が求められている
危機	少子化の問題に加え、社会全体の人口減少が、公立・私立に限らず生徒や教員の獲得競争に拍車をかけており、持続可能な地域や学校づくりのためには改革が求められる。
強み	コミュニティ・スクールの取組が推進され、町全体の連絡協議会も行われており、浜坂高校を含め、地域全体で教育を盛り上げている強みがある。地域コーディネーターが中心となり、学校や地域を全力で応援する活動の輪が広がっている。
弱み	出生数が確実に減少していく中で、新温泉町全体の学校園の在り方を考えなければならないと同時に、長期的に見れば、外部からの人材に頼らざるを得ない弱みがある。

【機会】×【強み】を中心に導き出した3つの基本理念

【一貫性】

子どもたちの学びをつなげ、夢の実現を支援できる一貫性

よりよく課題を解決し、自己の在り方生き方につなげる探究

【探究】

【連携】

持続可能な社会を築き、子どもたちが幸せを感じるための町全体の連携

基本理念

【中高連携の基本方針】

◆魅力的で系統性のある探究を中心とした「ふるさと教育」の推進

中高生が主体的に関われるよう魅力的で系統性・連続性のある探究を中心とした「ふるさと教育」を推進する。

◆グローバル社会を担う人材育成の推進

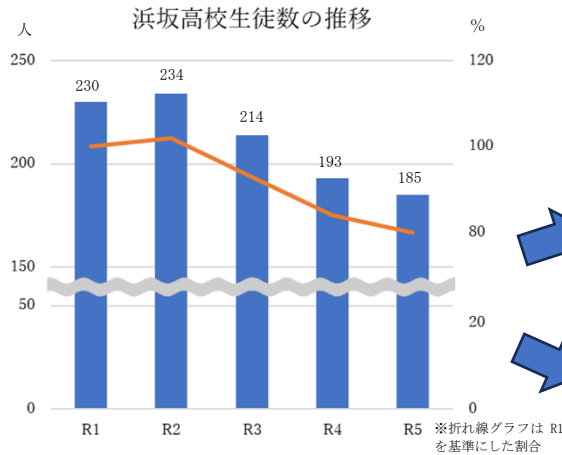
国際交流等を生かしながら、創造力や挑戦する心を育むとともに、ICTを活用した交流や遠隔授業等の充実を図る。

◆地域性を生かした持続可能な中等教育の推進

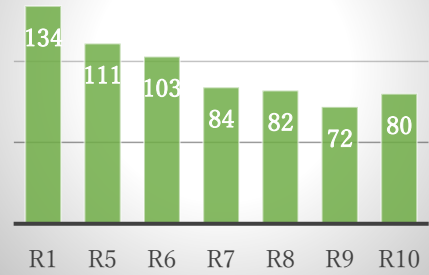
本町の取組を強化し、個々の選択肢を尊重しつつ、中高の6年間を持続可能で特色と魅力にあふれた教育を行う。

データを参考にした新温泉町の中高連携

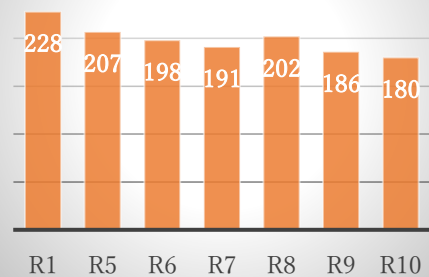
右のグラフは、浜坂高校と2つの中学校の生徒数を示すものです。
過去5年間、浜坂高校の生徒数は減少してきました。
これからの中学校の生徒数を見ると、今後も減少の可能性が高いことがわかります。



夢が丘中学校

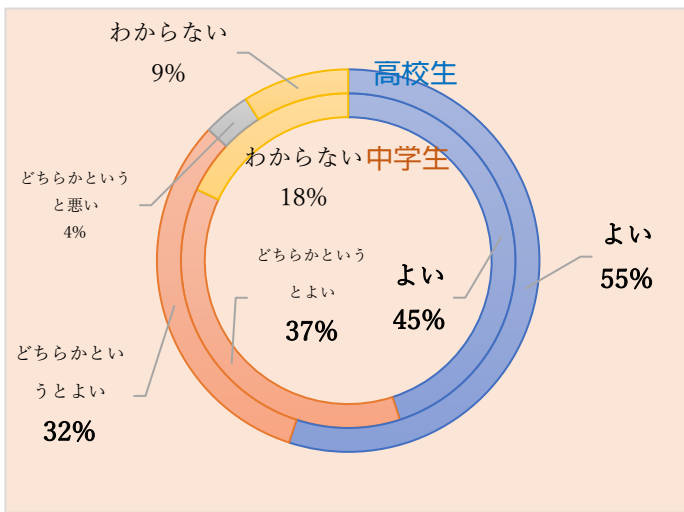


浜坂中学校



夢が丘中学校、浜坂中学校の生徒数（R1とR5は実数、R6以降は見込み数）

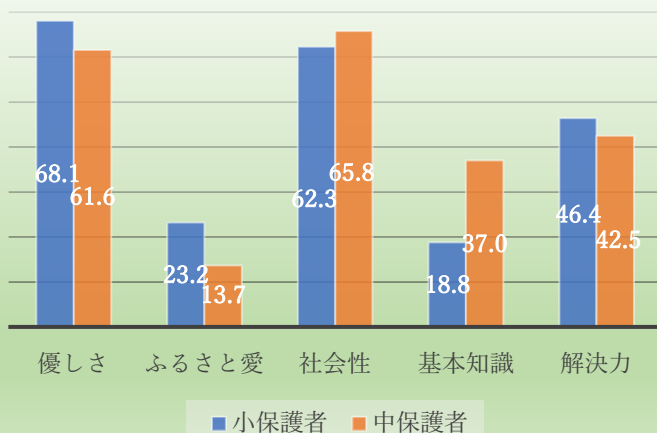
中高連携についてどのように思うかのアンケート



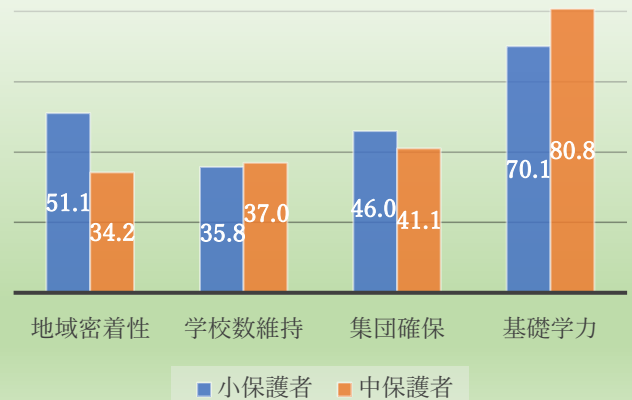
【中高連携の自由記述】

「学校間のかかわりが深くなって良い」「高校のことがよく知れる」「コミュニケーションがとれるようになる」「中学生と高校生の距離を少しでも縮めることができる」「スポーツを通じ交流が深められる」「アドバイスが受けられる」など

身につけてほしい力に関する保護者アンケート



学校園のあり方に関する保護者アンケート



上と左グラフは、令和5年度に実施した、新温泉町の教育に関するアンケートからの抜粋です。

上のグラフでは、【基礎学力】（基本的な学力など、子どもたちの「生きる力」が確実に身につけられること）を求めていることがわかります。

左のグラフでは、優しさや社会性、解決力（思考力や判断力、表現力など）の割合が高いです。また、中学校の保護者は、基本的な知識を求めていることがわかります。

自由記述のなかには、「少人数でクラスのメンバーも変わらず多様性の中でいろいろな価値観に出会う機会がない」などに加え、選択肢の減少や部活動への不安に関する記述がありました。

【参考】

令和5年10月14日（土）に「新温泉町子ども未来フォーラム2023」を実施しました。中学生や高校生の他、さまざまな世代の方々が集まり新温泉町の未来について語り合いました。人口減少の中にあっても、空き家の活用、多世代交流事業、部活動の合同実施やICTを活用した町の魅力発信など、各学校で重視されている「探究」を生かし、次々と未来へのアイデアが生まれていました。